



見る人、やる人、極める人、
楽しむ人、もちろんスポーツが苦手な人も・・・、

人によって考え方は違うものだが、言語や人種をこえて世界中の人々がスポーツでつながり、そして熱狂している。

スポーツには何か大きな力があることだけは確かだろう。

今月はそんなスポーツに魅せられ、自らの運動や体力づくりにだけでなく、市のスポーツ推進委員として、市民全体のスポーツ振興に情熱を注ぐ金丸光太郎さん（藤井町）にスポットを当て、その想いの源に迫ってみた。

取材当日、金丸さんはジャージ姿で現れた。日焼けした

小麦色の顔がスポーツマンであることを物語っており、高校時代から山岳・スキーで鍛えたという身体からは、とても65歳という年齢を感じさせないオーラが放たれていた。

さて、金丸さんが体育指導委員として活動を始めた平成7年頃とはいうと、「サッカーのまちにらさき」とは言うものの、市民全体からみたスポーツの浸透度はそれほどでもなかったと金丸さんは話す。

委員の活動自体もそれほど活発ではなく、平成11年には委員会の会長になったものの、何をすれば良いのか、何

シリーズ にはらさきを元気にする人たち⑥

スポーツで健康づくりのお手伝い

葦崎市スポーツ推進委員 金丸光太郎さん

から始めれば良いのか分からず試行錯誤の連続だったそうだ。

そんな中、金丸さんはスポーツに取り組み先進地自治体を視察してまわった。それらの自治体は決して他に誇れるような強豪スポーツがあるわけではないが、体育指導員が中心となってスポーツの推進を図っているとともに、市民がいつでもどこでもスポーツができる環境が整っていたという。

「葦崎だつて同じようにできるはずだ。」と強く感じた金丸さんは他の推進委員の方々とも協力しながら、まず市民の皆さんが求めているスポーツのニーズを把握することに努め、それらをスポーツイベントなどに取り入れていっていき、徐々にではあるが、地域の方々にこれらのイベントに参加してもらいスポーツに接する機会を増やしていつ

たそつた。

これにより、市民同士が交流して関わり合う環境ができ、地域も元気になっていったという。

こうした地道な活動がきっかけの一つとなって、平成13年には、山梨県で初めての総合型地域スポーツクラブである「NPO法人葦崎スポーツクラブ」が設立された。



現在、本市では「葦崎スポーツクラブ」に多くの市民が参加することで、スポーツが市民文化として定着しつつある。

「スポーツには人々の健康

や体力増進に役立つだけでなく、感動や活力、地域の一体感を生み出す力がある。」と話す金丸さん。平成26年の9月には、こうした長年の活動が高く評価され、文部科学大臣表彰が授与された。

また、金丸さんは地元藤井町ではラジオ体操のおじさんとしても知られているそう。この地区では金丸さんが中心となって、お正月以外の毎日ラジオ体操を公園で実施しているそう。

「私たちスポーツ推進委員は、市民の皆さんの健康づくりのお手伝いをさせていたただくこと、一人でも多くの方がスポーツをする機会を持ち、継続的に楽しみながら体力づくりができるようサポートするのが役割」と語る金丸さん。

スポーツの力で葦崎はもっと元気になっていくだろう。（取材・記事広報担当 歌田）